

(済々黌高等)学校 令和5年度(2023年度)学校評価表

1 学校教育目標

本黌建学の精神である三綱領を根幹とし、德育・体育・知育の三育併進、文武両道の気風を尊重し、一つ一つの教育活動を着実に実践し学校の活性化を目指す。生徒を育成するに当たっては

- 1 他者への思いやりを大切にし、社会に貢献する生徒の育成
- 2 心身ともに逞しく豊かな人間性を備えた生徒の育成
- 3 志を高く持ち、自ら求めて学ぶ生徒の育成

を目指す。

2 本年度の重点目標

- (1) 社会に貢献できる生徒(グローバルリーダー)の育成
- (2) 生徒指導の充実
- (3) 心身の健康の保持増進及び安全教育の徹底
- (4) 学力の向上
- (5) 進路指導の強化
- (6) グローバルキャリア部による探究活動の推進

3 自己評価総括表

評価項目 大項目	評価の観点 小項目	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題	
学 校 経 営	建学の精神の継承	教育活動の中での三綱領の理念の実践	三綱領の精神を理解し、自らその実践に励む生徒を育成する。	・学校全体で取り組み、様々な教育活動の場で折に触れる意識させる。	3.3 A	「三綱領」の精神は、学校の教育活動や行事を通して浸透していくものである。今年度は、感染防止対策を行い、教育活動や行事等を実施できたこともあり、昨年同様高評価につながった。
	S G H 成果の学校全体への普及	グローバル人材の育成	総合的な探究の時間を中心に、探究活動に取り組む。	・各学年の企画に基づき、講演、研修、レポート作成に取り組み、成果を発表する。	3.3 A	コロナ禍の影響が減少し、外部と連携した探究活動や海外研修等、生徒たちの成長の機会を充実させることができた。
	学校の活性化	学校行事の工夫と改善	生徒が活躍する機会を与える、魅力ある学校づくりを目指す。生徒と向き合う時間を確保する。	・運営委員会を定期的に実施し検討・協議の機会を確保する。 ・P D C Aサイクルを機能させ、年度内の改善に努める。	3.3 A	運営委員会を定期的に開催し、各部との連携をとることができたことで、教育活動や学校行事等の円滑な運営につながった。年度末反省をもとに、次年度の取組について必要な工夫や改善を図りたい。
	職員の資質向上	校内研修の充実	校内研修を通じて職員の資質向上に取り組む。	・各部が立案し、当面の課題に対し学校全体で取り組む。	3.2 A	適宜必要な研修を計画的に実施することができた。
	安全管理	施設・設備の保守・点検	施設面での危険箇所の改修に迅速に対応する。	・定期的な全職員による安全点検を行い、報告・連絡・相談を確実に行う。	3.2 A	安全点検で要望のあったところは、可能な限り迅速に対応できた。

学校経営	言語活動の充実	グローバル社会をリードする人材育成のための言語活動の充実	論理的思考力、課題解決力養成に向けた言語活動の充実を推進するための授業改善に取り組む。	・各学年で論理的思考力を伸ばす論文指導を推進する。 ・各教科で言語活動の充実を図り、授業改善につなげる。	3.0 A	各教科、授業の要所で言語活動を取り入れたり、定期考査問題の工夫をしたりすることにより論理的思考力・課題解決力の養成を行った。また、総探では論文作成なども行われており、これらの諸活動を来年度も継続して行う。
	業務改善	職員の負担感軽減	ICTの多様なツールを活用して校務のスリム化に取り組む。	・各種調査やアンケート等の集計、会議等にICTを積極的に活用する。	3.3 A	各種アンケートや模試の点数入力等の際にFormsを活用することで集計業務の負担を大幅に減らすことができた。学校行事や会議等にオンラインを活用することで、夏季・冬季の気候や感染症の流行等に左右されず、計画どおり教育活動が実施できた。
	働き方改革	職員の健やかな心身の維持	職員の平均年休取得日数を10日以上、長期休暇中の特休取得率を100%にする。	・休暇を取得しやすい雰囲気を作る。 ・学校閉庁日を4日間設定する。	3.0 A	夏季特別休暇取得率は96%で、昨年より10%ほど増加した。学校閉庁日の設定で、職員のリフレッシュにつながったと思われる。時間外勤務時間は、早朝課外の廃止や考査期間中に定時退勤推奨期間を設けたことで、減少傾向にある。年休取得日数も12.4日で、昨年よりも3.2日増えている。今後も引き続き働き方改革の推進に努めていく。
学力向上	基礎学力の充実	学習時間の確保	平日2時間以上の質の高い家庭学習時間を確保させる。	帰宅時間や睡眠時間等の生活習慣の見直しをさせる。 家庭学習時間調査の結果を踏まえ個々に合った学習方法の提案、キャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持たせることで主体的に学習に取り組めるよう指導する。	2.8 B	昨年度と同水準にとどまったが、これまでの課題をうけ、家庭学習時間調査結果を分析に活用できるシートを作成し、学年会などで提示した。今後は学習習慣と学力向上の相関など累積データの分析にも力を入れ、生徒を主体的な学習に導く授業改善などの工夫・精選を進める。

学 力 向 上	分かる授業・考える授業の創造	教師の指導力の向上	生徒の学習意欲を高める指導を実践する。	教科会や公開授業を充実させることで生徒が主体的に考える授業を実践し、教材研究に努めて思考力や判断力を向上させる授業を実践する。授業評価アンケートを実施して生徒の実態・要望などを把握し、授業に活かす。	3.1 A	社会に開かれた学校を目指し、公開授業を開催した。外部からの意見も取り入れ、授業改善に努めていく。授業評価アンケートの運用については集計・提供ともに改善が懸案となっている。先生方の授業改善に活用していただけるよう次年度以降修正を加えていく。
	キャリア教育（進路指導）	生徒の進路目標の実現	生徒の進路意識高揚に向けた取組の実践	進学資料の提示だけでなく学部学科説明会、職業別講演会や大学出張講義などを実施する。 <ul style="list-style-type: none">・継続的に刺激を与え、将来のキャリアを主体的に考え、自らの可能性にチャレンジする生徒を育む。・面接指導を充実させ、生徒を理解し、信頼関係の構築に努め、適切な進路指導に繋げる。	3.3 A	1年職業別講演会や2年大学出張講義などは生徒たちの進路意識の向上に役立った。さらに早朝課外廃止にともない、クラス担任や教科担任との面談を充実することができた。
		教師の教科指導力の向上	難関大入試に対応しうる教科指導力の向上のための教材研究の徹底、および授業を魅力的に行うための準備を実践する。	<ul style="list-style-type: none">・教科会と連携し、指導力向上と指導法の継承に努める。・校内模試の更なる充実を図り、結果をその後の指導に活用する。・大学入試問題分析を積極的に行い自己研鑽を積む。・ＩＣＴの積極的な活用により、職員の授業力向上および生徒の学力向上を図る。	3.2 A	難関大合格者を輩出するために、各教科会を通じて入試問題の研究分析が十分できた。難関大の問題から発せられるメッセージを理解し、教科指導および進路指導につなげることができた。校内模試の検討会など作問能力を高めることができた。
		教師の進路指導力の向上	3年間の進路ストーリーを計画し、進路指導の充実を図る。	・校内での進路に関する職員研修や学力検討会、進路検討会を充実させる。	3.2 A	研修会や検討会から最新の進路情報や進学指導を充実させることができた。
生 徒 指 導	済々覺生としての矜持を持たせる指導	德育の推進	「他者を思いやる心」の育成を図り、社会的倫理観を醸成する。	<ul style="list-style-type: none">・生徒会行事等において協力し支え合う姿勢を養う。・教育相談部と連携し、いじめを未然に防ぐ取組を行う。	3.2 A	運動会や文化祭、クラスマッチなどの行事をとおして、主体性や協調性を身に付けることができた。機会を捉えモラルの向上を呼び掛けて「心の教育」を大切にしているが、思いやりに欠ける言動が見られた。引き続き、他者を思いやる心の醸成を図っていく。

生 徒 指 導	済々覺生としての矜持を持たせる指導	基本的生活習慣と自己規律の確立	時間の厳守や端正な服装の徹底など、基本的生活習慣を確立させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体で各学期に登校指導を実施する。 ・全職員共通理解のもと、一貫した指導を行う。 	3.1 A	各学期の登校指導は計画どおり実施できた。服装・頭髪等は概ね良好であるが、カーディガンのボタンを外している生徒が見られた。今後も一貫した指導を継続する。
	安全教育の徹底	交通ルールの遵守と安全意識の高揚	社会のルールや規則等を遵守する指導を行うとともに、防犯安全意識を高める取組を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・外部機関と連携し、実技講習会を実施する。 ・生徒会活動を充実させ、自転車乗車時の一時停止励行やヘルメット着用などの交通安全意識を高める活動を促す。 	3.2 A	3月末に単車通学生向け実技講習会、10月に全校生徒向けにスタッフによる交通安全教室を実施した。学期1回の交通委員による啓発活動も実施した。
人 権 教 育 の 推 進	豊かな人権感覚を身に付けた生徒の育成	知識的側面からの取組	人権教育における学習指導の工夫と改善を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒及び職員に対し校外研修への参加を促す。 ・人権教育ＬＨＲや講演会を計画的に実施する。 	3.2 A	4名の職員・2名の生徒が校外研修に參加した。また、部落差別および生徒支援についての校内研修を実施した。 人権教育ＬＨＲについては計画通り実施することができた。
	価値的・態度的側面からの取組		生徒一人一人の心の内面に働きかけるような指導を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・面談週間を計画することで面談を充実させ、生徒が相談しやすい環境を作る。 ・生徒理解・教育相談のための職員研修を定期的に実施する。 ・人権教育推進委員会を適宜実施する。 	3.4 A	面談週間を1・2学期に実施し、面談を通して生徒理解に努めた。 人権教育推進委員会を実施し、今年度の成果・反省を踏まえて来年度の計画を作成した。 SC・SSWの協力を得て、本覺生徒の実態に即した研修を行うことができた。 毎月スクールカウンセラー通信を配付して、生徒の不安を取り除くためのアドバイスを行った。
			生きる喜びを実感し、苦しい思いをしている人に寄り添うことができるよう指導を行い、実践ができるようになる。	<ul style="list-style-type: none"> ・読み物資料の配付や講師による講話、教師からの訓話などの実施。 ・生徒の感想を次の指導にフィードバックする。 	3.1 A	「自己肯定感アンケート」を1・2年生は毎学期1回、3年生は2学期当初に1回実施し、面談やカウンセリングにつなげることができた。

いじめの防止等	いじめの未然防止	積極的な啓発活動の実施	いじめをしない・させない・許さない態度を堅持させる指導を徹底する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ストレス対処教育のエンカウンターを実施する。 ・スクールロイヤーによるいじめ予防授業を実施する。 ・生徒会を中心とした啓発活動を行う。 ・いじめ防止対策委員会を毎学期行い、生徒の状況の把握と対応に努める。 	3.2 A	エンカウンターでは、協働作業を通じて生徒同士の相互理解につなげた。 いじめ予防授業を通して他者とのコミュニケーションのあり方やSNSのマナーなどを学ぶことができた。 6月の「心のきずなを深める月間」の周知を図るため生徒会が昼休みの放送で呼びかけた。 SCを講師に迎えて1年生にストレスマネジメント講話をを行い、不安への対処についてアドバイスができた。
	いじめへの迅速な対応	いじめの早期発見・早期解決と再発防止	いじめまたはいじめを疑われる事態が発生した場合には、いじめ防止基本方針に従い、被害・加害双方の生徒に速やかに対応し、指導を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ人権アンケートや心のアンケートにより実態把握と早期発見に努める。 ・いじめ防止対策委員会を開催し、問題解決に努める。 ・情報を集約し、職員間の共通理解を図り、事後も指導を継続する。 		アンケート実施後、いじめが疑われる事案を発見した場合は情報集約会議を開催し、対応にあたった。生徒指導案件の判断のため、さらに速やかに生徒指導部との共有を強化する必要性がある。
健康教育	健康で安全な生活を送るための実践力の育成	生徒の心身の健康管理と傷病予防	生徒が自身の健康状態を把握、管理する力を育成し、新型コロナウィルス感染症、インフルエンザなどの感染症予防を徹底した生活を送れるよう指導を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の健康観察、生徒保健委員会による「保健だより」の発行や注意事項の掲示により、感染症予防を啓発する。 	3.3 A	クロームブックを活用した健康観察や保健だよりをとおして、生徒が自身の健康状態を把握、管理する力を育成し、感染症予防を重点に健康な生活を送る力を育むことができた。
		熊本地震後の生徒の心身の健康管理、日常の健康観察を行う。		<ul style="list-style-type: none"> ・心と体の健康調査や、保健室来室状況から実態把握に努め、職員間で情報を共有し対応する。 	3.3 A	心と体の健康に関する調査結果や保健室来室状況等の実態を職員間で共有し、生徒の心身の健康管理に努めた。
	教育環境の整備	清掃指導の徹底と環境保全の意識や奉仕の精神の育成	毎日の清掃を生徒・職員全員で実施し、校内の環境整備を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校環境衛生検査及び毎月の安全点検を実施する。 ・美化委員による校内環境の整備を行う。 	3.0 A	学校環境衛生検査では基準値を満たし、問題はなかった。日々の掃除の徹底を呼びかけたが、不十分のところもあった。生徒・職員全員の環境美化に対する意識向上を目指す。

図書館教育	読書習慣の形成	読書指導の推進	情報提供、時間の設定により、読書意欲を高めて図書館利用を促し、読書習慣を身に付けさせる。	・広報誌の充実。クロームブックを活用した情報発信と利便性の向上をはかる。 ・年2回「朝の読書」週間を実施する。 ・学期ごとに2, 3回特別展示を行う。	3.3 A	クロームブックによる図書館サイトの開設広報紙の配信ができた。発信の浸透が今後の課題である。朝読書、特別展示も予定通り実施。取組が貸し出しの増加につながっていないのが残念である。
	学習活動支援の充実	蔵書や設備の充実	資料の充実と環境整備をすすめる。	・利用しやすい館内の展示を工夫する。 ・教科や各部との連携を図り必要な資料を収集する。	3.3 A	季節の展示、教科とのコラボ展示は、教科の協力を得て、例年以上に充実していた。
保護者との連携	同心会（PTA）と学校の積極的な連携・協力	連携を深め、円滑な校務運営を行うための情報提供	保護者への頻繁な情報提供に努め、本校教育への理解と協力を得る。	・学校及び同心会HPと会報「同心」を充実させるとともに、学校からの情報提供に一斉メールを活用する。	3.4 A	情報企画部との綿密な連携を図ったことで、HPの更新回数が増加したとともにその質も向上した。その結果、学校評価保護者アンケートの該当項目における肯定的な意見の割合が90%に達した。今後も各部署と協力しながら、迅速かつ正確な情報発信に努めたい。
		PTA活動の活性化	学校行事等への参加及び協力を促すと同時に、各種委員会活動を活性化させる。	・行事の案内や協力要請等、適切かつ迅速に行う。 ・成功裏に終わった本校創立140周年記念事業を検証することで、150周年事業に向けての糧とする。	3.3 A	学校行事や各種委員会についてはコロナ禍前の水準に戻っており、活発な活動がなされている。今後も感染症の罹患状況等を鑑み、オンライン方式を併用するなど臨機応変に対応したい。 150周年に向けて歴史資料館の環境整備や資料のデジタル化等を進めている。
地域連携（コミュニティスクールなど）	学校運営協議会（総合型）委員との連携・協力	連携を深化情報の共有	学校運営協議会委員と学校との情報共有に努め、理解と協力を得る。	・総合型コミュニティスクールの円滑な運用を図る。 ・地域と連携した行事や活動ができる限りを実施する。	3.0 A	今年度も学校運営協議会を対面で開催することができた。新型コロナの感染症の分類が5類に移行され、コロナ禍前の活動を取り戻しているが、他の活動等の連携が十分にできていない。まずは可能なところから少しづつ連携を深め、情報共有と協力体制の構築を図りたい。

(1) 自己評価について

- ・年々評価が高まり、取組の成果が現れている。
- ・概ね高評価となっており、充実した教育環境が見て取れる。
- ・働き方改革も推進され、先生方の勤務状況に変化が見られる点は評価に値すると思われる。
- ・「成果と反省」の中で、成果が上がっている点は充分理解し評価するが、反省点を見出し、次年度への改善につなげてほしい。
- ・自己評価は概ね良好で素晴らしいと思う。
- ・学校経営の働き方改革については、生徒のためにも先生方の健やかな心身の維持が大切なので、改革を推進していってほしい。
- ・学力向上も大切であるが、近年は教育相談部の役割が重要になっていると思う。常に生徒に寄り添い、見守っていただきたい。
- ・ほとんどの項目がA評価で、昨年度を上回る結果を見てすばらしいと思う。各部で様々な取組をされた賜物だと思う。きめ細やかに指導されていると感じた。
- ・ホームページは中学生やその保護者も見ているので、魅力あるものにしているのはありがたい。色々すばらしい取組をどんどん発信されるとよいと思う。
- ・面談週間の実施はとてもよい取組だと思う。済々黙高校の生徒は能力が高いので面談でモチベーションを上げることは大切だと思う。
- ・図書の貸し出し数が減っているのは少し気になる。(今の時代やむを得ないとも思うが)
- ・評価については、ほとんどが「A」で、前回から改善が見られた項目も多くあった。先生方の努力と生徒達の前向きな姿勢が結果に表れたのだと思う。
- ・社会貢献、地域貢献、命の大切さ等の教育方針がとてもよく表れた評価と感じた。
- ・交通マナーについては、特に自転車通学の生徒達に命の大切さの点から指導してほしい。
- ・子飼商店街活性化という点で、商店街への積極的な関与はすばらしいと思う。共に協力していきましょう。
- ・防災については、災害等の拠点としての設備や訓練等の取り組みがすばらしいと思う。
- ・学校経営(働き方改革)に関し、引き続きワークバランスを図り、メリハリのある習慣によって職員の士気向上に努めていただきたい。限られた人員・時間の中で生産性を向上させることは大変だが、マネージメント能力の向上につながると思う。
- ・いじめ対応に関しては、難しい課題かと思いますが、早めの対応が大事と思う。生徒の学校生活の状況にアンテナを高く持ち、「兆し」の把握に努めていただきたい。
- ・学校評価において、3.0以上については今後も継続し、更なる向上を目指してほしい。
また、3.0未満については、改善してもらいたい。
- ・働き方改革については、今後も引き続き改革の推進に努めて頂きたい。
- ・防災については、今年目標としている部分はおおまか実施されており、問題ないかと思う。
今後は地域と連携した訓練を実施して頂きたい。

(2) 次年度への課題・改善への方向性について

- ・避難所運営委員会の立ち上げに期待している。校内の避難訓練と別に共同運営が出来ればと思う。
- ・海外への進路も選択できるように、1年生の時から生徒に情報を伝え、学校と同窓会等が協力して生徒をサポートできる体制を作る必要がある。
- ・これからも中学生にとってあこがれの高校であり続けてほしい。
- ・文武両道で魅力ある高校、特色ある学校づくりを。
- ・探究活動の成果発表会などを中学生や教員にも公開すると、中学校の探究学習の参考となり、本校への進学希望者増につながるのではないか。
- ・人を育てる取り組みを、引き続き頑張っていただきたい。
- ・「防災」に関し、災害時の避難所運営については、早期に具体的な体制構築、マニュアル作成に取り組んだ方がいいと思う。
- ・各部とも成果と反省があがっており、それぞれの部会で協議して頂き、次年度につなげてほしい。

5 総合評価

職員による4段階での評価については、「基礎学力の充実」の項目を除き、3点以上のA評価であった。「基礎学力の充実」の項目は、評価の平均が昨年と同水準の2.8のB評価で、最低であった。この項目については、昨年度の反省から家庭学習時間の調査結果を分析し、各学年会等で分析結果を共有して、学年集会や2者面談、ホームルームでの指導につなげてきたところであるが、評価が低かった要因としては、本校生に求める学習状況の水準（期待値）に到達していないためと考えられる。「基礎学力の充実」の評価の観点である「学習時間の確保」については、生徒の家庭における主体的な学びにつなげる取組が必要である。そのために、1人1台端末の活用と授業改善をさらに推進し、授業と生徒の主体的な学びが結びつくように、次年度も引き続き改善項目として、全職員で対応していきたい。

昨年度B評価であった「働き方改革」については、「年休取得日数」や「夏季特別休暇取得率」も増加した。早朝課外の廃止および考査期間中の定時退勤推奨等の取組もあり、職員の時間外勤務時間も減少している。今後も引き続き働き方改革の推進に努めたい。

昨年に比べ「業務改善」「キャリア教育（進路指導）」「済々校生としての矜持を持たせる指導」「教育環境の整備」の項目で評価が低くなかった。「業務改善」については、評価の観点がICTツールの活用であったため、評価が下がったのは、校舎改修に伴う仮設校舎へのオンライン接続の不具合等も影響しているものと考えられる。その他、前年度より評価が低くなった項目については、次年度に対策を講じて改善に向けて取り組みたい。

全項目の評価平均は「3.2」であり、全体的に見ると概ね達成できていると判断できる。これは各部において成果と反省が分析されており、今年度の努力目標に向かってしっかりと取り組んだ結果と考えられる。保護者や生徒からの評価については、すべての項目で3点以上の高評価であった。今年度の課題や反省を踏まえ、次年度の取組に活かしていく。

6 次年度への課題・改善方策

三綱領をベースに目標を設定し、今後も継続した取組を行っていく。今年度評価が低かった項目や引き続き改善を必要とする項目については、各部でその対応を十分に検討した上で目標を設定し、具体的方策をもとに組織的に改善に取り組みたい。また、今後は地域との連携を深め、協力しながら校内外の活動にも注力していきたい。次年度も本校の教育活動や取組の情報発信を強化し、本校の魅力をさらに積極的にPRしていくとともに、学校行事や教育活動等の充実に努め、本校の活性化につながる取組をしていきたい。